

証券コード 6480



IKO

Innovation, Know-how & Originality

第66期 中間報告書

平成26年4月1日▶平成26年9月30日

日本トムソン株式会社

暮らしを支える IKO

Oil Minimum

地球環境に貢献する IKO

IKO 日本トムソンは、地球環境に優しい製品の開発を進めています。

「製品を通してお客様の機械・装置への信頼性を高め、地球環境に貢献する」

このような当社の開発姿勢をイメージするキーワードが「Oil Minimum」です。

家や会社で使う、パソコンや液晶テレビをつくる装置などにも



エレクトロニクス関連装置

- 半導体製造装置
- ディスプレイ製造装置
- 電子部品実装機
- 電子部品検査装置など

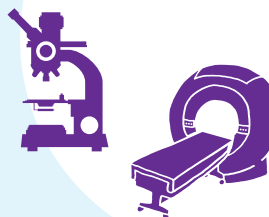
ビルをつくる建設機械やロボットなどにも



産業用機械

- 印刷機械
- 建設機械
- 繊維機械
- ロボットなど

病院の医療機器や研究所の計測機器などにも



精密機器

- 計測機器
- 医療機器
- 光学機器など

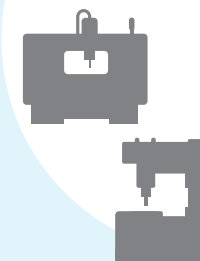
車・オートバイ・鉄道車両・航空機などにも



輸送機器

- 自動車
- オートバイ
- 鉄道車両
- 航空機など

さまざまな製品をつくるための機械などにも



工作機械

- マシニングセンタ
- 複合加工機
- 旋盤
- 研削盤
- 放電加工機など

私たちの暮らしの身近なところでも IKO 製品が活躍しています

当社グループの製品は、世界中の人々に利便性や快適さを提供するモノや、それらを生産する設備を支えています。身近なところでは、自動車やオートバイなどの輸送機器、モノづくりを支えるマシニングセンタなどの工作機械、半導体製造装置をはじめとするエレクトロニクス関連装置等、その活躍の舞台はあらゆる分野に広がっています。それらのニーズに応えるため、当社グループでは、営業・技術・生産部門が一体となった事業活動を展開しています。



針状ころ軸受 (ニードルベアリング) 等

直動案内機器 (直動シリーズ)



直動案内機器 (メカトロシリーズ)





取締役社長

宮地 茂樹

決算のポイント

①

工作機械、エレクトロニクス向けの需要回復により、14.6%増収
(前年同期比)

②

市場回復に伴う増収・増産等により営業利益は約3倍
(前年同期比)

③

在庫適正化の推進により、たな卸資産20億円削減
(前期末比)

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第66期第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）が終了いたしましたので、当社グループの営業の概況につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により一時的な個人消費の落ち込みなどが見られましたが、円安を背景とした企業業績の改善等、緩やかな景気回復が続きました。海外経済に

おいては、米国は引き続き堅調に推移し、アジア地域も安定的な景気拡大が続きましたが、欧州では持ち直しの動きはあるものの回復感の弱い状況となりました。

このような情勢のもとで、当社グループといたしましては、グローバル市場での需要開拓を進展させるとともに、今後の成長市場における競争力強化のための諸施策を推進いたしました。

販売面につきましては、プライベートショーやユーザー展示会を多数開催し、「ユーザーに密着した提案型営業活動」を積極的に展開するとともに、海外市場においては、中近東や中南米地域をはじめ新興市場での販売網の拡大に取り組みました。

生産面につきましては、生産子会社のIKO THOMPSON VIETNAM CO., LTD.で生産能力の増強・生產品目の拡充を図るとともに、グローバル調達の最適化によるコスト競争力の強化等に努めました。

当社グループの営業状況をみますと、国内市場は主に半導体製造装置や電子部品実装機等のエレクトロニクス関連機器や工作機械向けの需要は堅調に推移しました。海外市場では、円安による輸出競争力の向上を背景に、欧米地域においてはエレクトロニクス関連機器や精密機械向け等を中心に需要は順調に回復いたしました。アジア地域においては、中国および本年4月に設立したタイ王国の販売子会社で積極的な営業活動を展開し、売上高は増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に比べ14.6%増の22,193百万円となりました。収益面につきましては、増収・増産効果等により、営業利益は1,786百万円（前年同期比195.2%増）、経常利益は1,827百万円（前年同期比54.0%増）、四半期純利益は1,180百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

今後の見通しと課題

今後の見通しにつきましては、欧州経済の停滞感や中国経済の減速懸念はあるものの、国内外の需要は安定して推移するものと見込まれます。

このような状況の中で当社グループといたしましては、さ

らなる存在感のある企業グループとして発展していくための諸施策を推進してまいります。

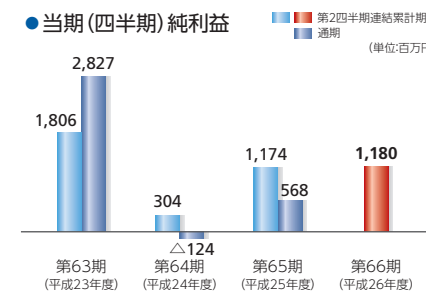
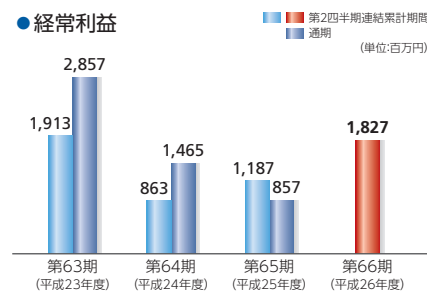
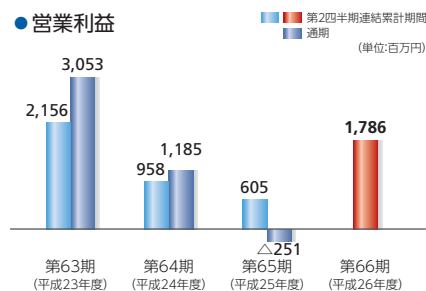
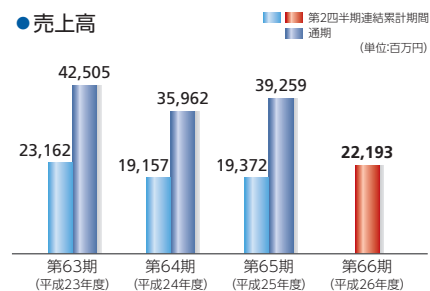
販売面につきましては、販売政策の柱となる「ユーザーに密着した提案型営業活動」を通じて、国内外市場でIKOブランドの一層の浸透に努めてまいります。また、アジア地域における市場開拓はもとより、ブラジル、南アフリカ等の新興市場での代理店との関係強化等、グローバル市場での販売網拡大を加速させる諸施策を推し進めてまいります。

生産面につきましては、国内の柔軟な生産対応力とコスト競争力のある海外生産拠点の両輪をフル活用するとともに、グローバルサプライチェーン体制の構築を推進し、国際競争力の向上につなげてまいります。

収益面につきましては、販売拡大、生産性向上を図るとともに、スピードある経営体制により、さまざまな増収・増益施策を迅速に推進してまいります。

なお、第66期の中間配当金につきましては、平成26年11月10日開催の取締役会におきまして、1株につき5円をお支払い申し上げるよう決議いたしました。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



当期末の業績見込み（連結）

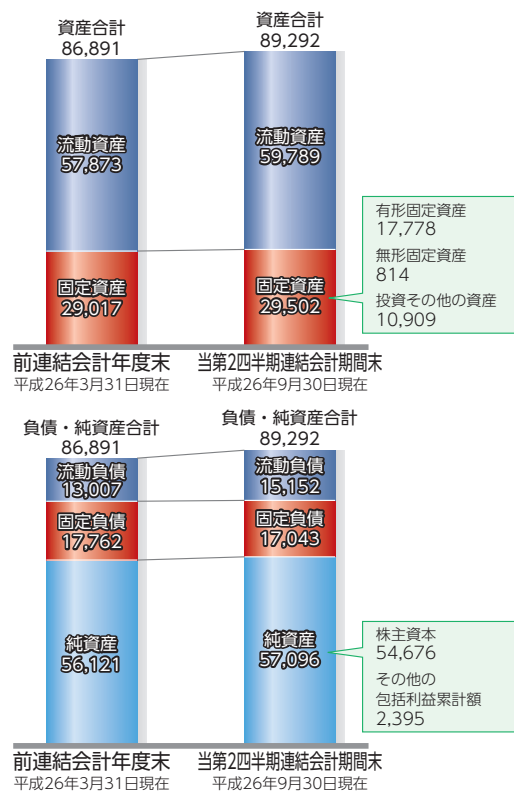
(平成26年11月10日現在)

売上高	44,000 百万円
営業利益	3,700 百万円
経常利益	3,700 百万円
当期純利益	2,400 百万円

(注) この中間報告書に記載している金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

▲ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)



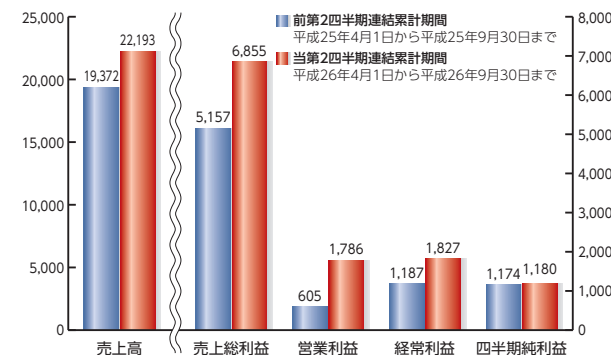
科目	前連結会計年度末 平成26年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 平成26年9月30日現在
資産の部		
流動資産	57,873	59,789
固定資産	29,017	29,502
資産合計	86,891	89,292
負債の部		
流動負債	13,007	15,152
固定負債	17,762	17,043
負債合計	30,770	32,195
純資産の部		
株主資本	53,874	54,676
その他の包括利益累計額	2,246	2,395
純資産合計	56,121	57,096
負債・純資産合計	86,891	89,292

- 1 資産合計** / 前連結会計年度末に比べ2,400百万円増加し89,292百万円となりました。これは主に、現金及び預金924百万円、受取手形及び売掛金1,390百万円、投資有価証券1,515百万円等の増加と、たな卸資産1,999百万円等の減少によるものであります。
- 2 負債合計** / 前連結会計年度末に比べ1,425百万円増加し32,195百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金1,068百万円等の増加と、総借入金152百万円等の減少によるものであります。
- 3 純資産合計** / 前連結会計年度末に比べ975百万円増加し57,096百万円となりました。これは主に、利益剰余金769百万円、その他の有価証券評価差額金718百万円等の増加と、為替換算調整勘定538百万円等の減少によるものであります。

▲ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで
売上高	19,372	22,193
売上原価	14,215	15,338
売上総利益	5,157	6,855
販売費及び一般管理費	4,552	5,068
営業利益	605	1,786
営業外収益	719	178
営業外費用	137	136
経常利益	1,187	1,827
特別利益	160	61
税金等調整前四半期純利益	1,347	1,889
法人税等	172	695
少数株主損益調整前四半期純利益	1,174	1,193
少数株主利益	—	13
四半期純利益	1,174	1,180



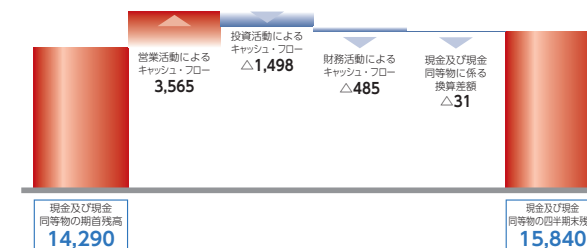
- 4 売上高** / 前年同期に比べ14.6%増の22,193百万円となりました。国内市場においては、エレクトロニクス関連機器や工作機械向けの需要が堅調に推移し、海外市場では円安による輸出競争力の向上を背景に、欧米地域においてはエレクトロニクス関連機器や精密機械向け等を中心に需要は回復し、アジア地域は中国およびタイ王国の販売子会社の積極的な営業展開が貢献しました。
- 5 四半期純利益** / 収益面につきましては、増収・増産効果等により、営業利益は1,786百万円（前年同期比195.2%増）、経常利益は1,827百万円（前年同期比54.0%増）、四半期純利益は1,180百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

▲ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,371	3,565
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,032	△ 1,498
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,796	△ 485
現金及び現金同等物に係る換算差額	199	△ 31
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	2,741	1,549
現金及び現金同等物の期首残高	9,967	14,290
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,709	15,840

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）



- 6 営業活動によるキャッシュ・フロー** / 主に税金等調整前四半期純利益1,889百万円、減価償却費1,277百万円、たな卸資産の減少額1,742百万円、仕入債務の増加額1,155百万円等による収入項目と、売上債権の増加額1,458百万円等の支出項目との差額によるものであります。

国内・海外における展示会活動のご紹介

当社グループの高い技術力とバリエーション豊かな**IKO**製品を、多くのお客様にご覧いただく場として開催している“地域密着型”プライベートショー「**IKO Today**」。

今年は、6月に八王子市、10月に静岡市清水区で開催し、あわせて約1,400名にものぼる多くのお客様にご来場いただきました。

また当社グループでは、海外においても多くの展示会に出展しており、6月にはタイ王国で最大の自動車部品技術展示会である「Manufacturing Expo 2014」に出展しました。この展示会は、タイ王国およびアセアン諸国を中心として合計1,600社以上が出展する、同地区でも有数の大規模展示会で、当社グループとしては初出展となりました。

今回の展示会は、IKO THOMPSON ASIA CO., LTD.が設立されてから初めて経験する大規模展示会でしたが、現地社員の非常に積極的で熱心な接客対応等もあり、製品および当社グループのPRに大きく貢献するものとなりました。

今後も、国内・海外における各種展示会等への積極的な取り組みにより、**IKO**ブランドのイメージ向上および販売拡大を目指してまいります。



プライベートショー **IKO Today**



Manufacturing Expo 2014

「2014年“超”モノづくり部品大賞」で「奨励賞」を受賞

11月27日に、日刊工業新聞社主催による「2014年“超”モノづくり部品大賞」において、「CルーブリニアウェイLV (MLV)」が「奨励賞」を受賞しました。

MLVは、精密に研削加工された軌道溝と4点で接触する鋼球を2条列に配置したシンプル構造により、小形サイズでも高い精度と剛性、なめらかで安定した走行といった優れた性能を実現しています。また、鋼球循環路に循環パイプを採用することにより、従来製品である「CルーブリニアウェイL (ML)」の基本性能を損なうことなく大幅な価格低減を実現しました。

今回は、各種半導体製造装置・精密測定装置などの位置決め機構の案内部に、幅広い需要が期待される点が評価され受賞に至りました。

～ 受賞製品 ～

CルーブリニアウェイLV MLV



株式の状況

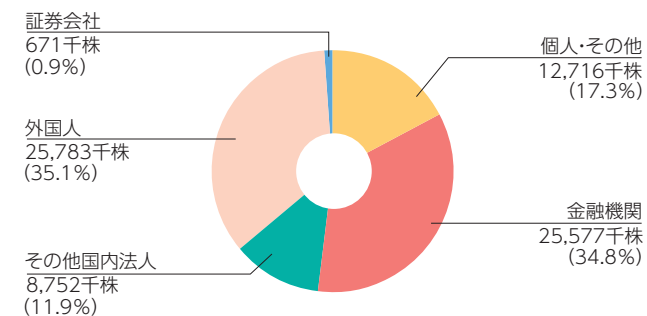
発行可能株式総数	291,000,000株
発行済株式の総数	73,432,342株 (自己株式67,533株を除く)
株主数	3,920名 (前期末に比べ117名減)

大株主および持株数

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	6,010	8.18
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	4,601	6.26
日本生命保険相互会社	4,486	6.10
日本トムソン取引先持株会	3,820	5.20
ジェーピー モルガン チェース バンク 385093	3,350	4.56
株式会社不二越	2,008	2.73
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	1,886	2.56
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,612	2.19
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,305	1.77
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	1,194	1.62

(注) 持株比率は自己株式 (67,533株) を控除して算出しております。

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	日本トムソン株式会社
英文商号	NIPPON THOMPSON CO., LTD.
商標	IKO
設立	昭和25年2月10日
本社	東京都港区高輪二丁目19番13号 TEL.03-3448-5811
資本金	95億3,266万9,740円
従業員数	1,612名 (グループ合計)
営業品目	針状ころ軸受(ニードルベアリング)等 直動案内機器(直動シリーズ、 メカトロシリーズ) 諸機械部品

取締役

取締役社長	宮地 茂樹
専務取締役	近藤 俊夫
常務取締役	田中 一彦
常務取締役	服部 信一
常務取締役	秋本 利隆
常務取締役	田中 清春
取締役	木村 利直
取締役	三浦 利夫
取締役	下村 康司
取締役	米田 道生
社外取締役	武井 洋一

監査役

常勤監査役	鈴木 一夫
社外監査役	石部 憲治
社外監査役	齊藤 聡
社外監査役	那須 健人

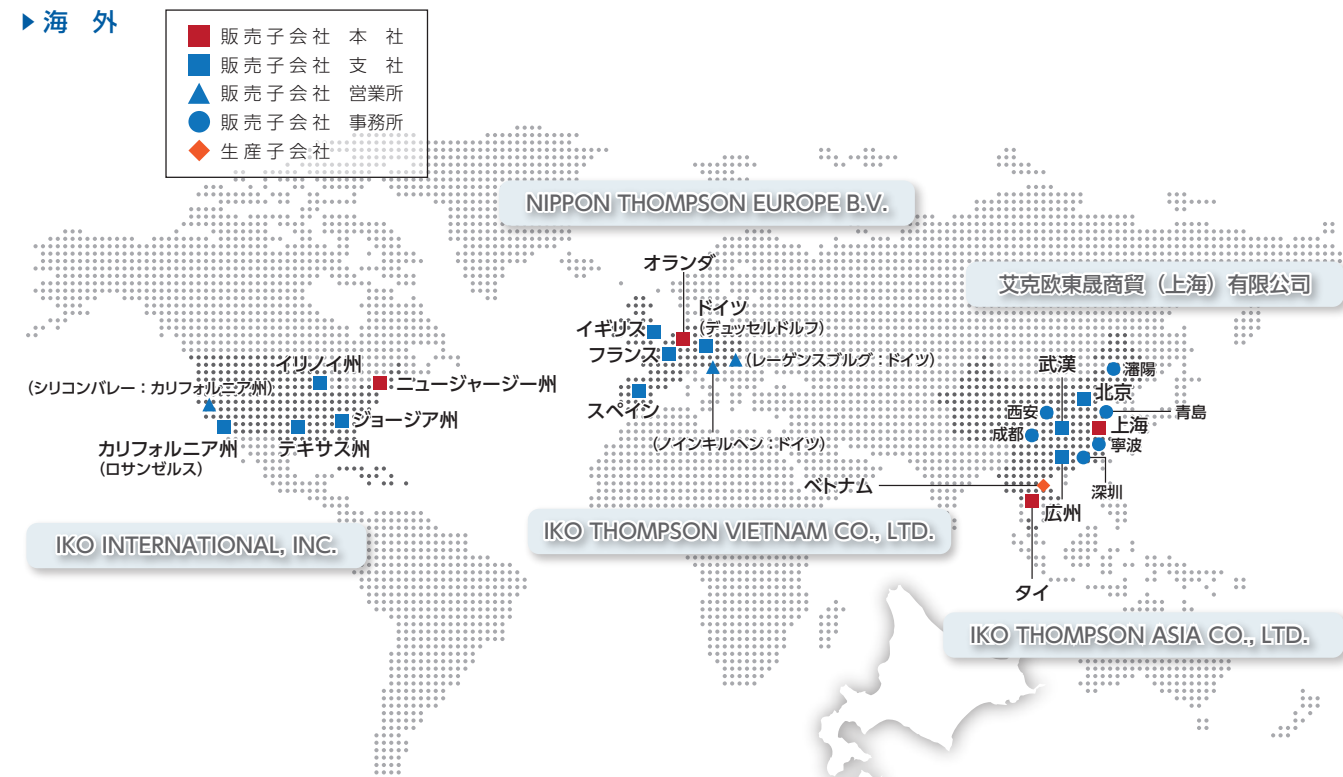
執行役員

執行役員	廣川 道雄
執行役員	横田 保則
執行役員	岡嶋 徹

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

海外



国内



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主 確定日	毎年3月31日 (中間配当を行う場合：毎年9月30日)
基準日	毎年3月31日 上記のほか必要があるときは、取締役会の決議により定め、これを公告する。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店 で行っております。
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載する。

ホームページをご活用ください



<http://www.ikont.co.jp/>

決算短信等、最新の会社情報を当社ホーム
ページ「IR情報」に掲載しております。

日本トムソン株式会社



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。